

第十二回目

平塚 西岸寺 小林 昭磨師



発行責任者

員弁組連研部会長

蓮成寺 藤田 智善

第十二回目のテーマ

「環境・臓器移植・格差などの社会問題は、宗教の入り込む問題ではないと思います」

近年、科学が進歩するとともに、環境・臓器移植・格差などの社会問題が生まれて来ました。今回は、その中でも「医療の進歩と社会問題」に着目し、「脳死と臓器移植にどのように関わればよいのでしょうか」というテーマで話し合いを行いました。難しいテーマですが、多くの意見を出していただいたこと感謝いたします。

「脳死と臓器移植にどのように関わるかを提供する側と提供される側で考える話し合い」では、家族が臓器移植を必要とするとき、その年齢や金銭的な問題などで状況は変わるが

できるものなら受けたいという意見が大半を占めました。一方、家族が脳死となった場合、臓器の提供に同意することは難しく、特に子供の場合は無理であるという意見が多く出ました。

「これからの医療の進歩にどんなことを望むのか。病気の治療だけではないのか。それともそれ以上にもっと大切なことがあるのか」という問いにおいては、医療が進歩には敬意を表すが、延命のためだけの治療が果たしていいことなのか、病気の治療には心のケアが必要で、患者に対する精神的な支えが必要、などの意見が出ました。

「医療の進歩が原因で生じた社会問題に宗教は入り込む余地はないのか」という問いにおいては、心よりどころとして宗教がある、余命宣告された後は神棚や仏壇に向かう、仏教は生老病死に関わっている、など医療と宗教の関わりに関する意見が出

# 第1期 連研だより

月しました。

2018年6月  
医療の技術の進歩は、肉体の修理工場として必要不可欠なものです。

その技術の一つに臓器移植があります。しかし、他人の死をあてにしな

いとできない心臓、肺、膵臓等の移植には、倫理的にも大きな問題があります。

臓器移植をしなくても済むI P S細胞を利用し臓器を再生し移植する再生医療や、クローン技術を利用した臓器移植も研究されており

ます。これらの方法は、患者さんの負担も少なく、倫理的な問題もない

優れた医療につながると期待されています。

ここ数年の医療の進歩は、目覚ましいものがあり、癌・脳卒中・心筋梗塞など、以前は治療が困難であった疾患が、今は治る病気となってきました。

そして、治すことができな

ない病気を治そうと考えられたのが

脳死の患者からの臓器移植です。

しかし、医療において、技術の進歩

だけがすべてと考えることは、とても傲慢で危険性をはらんでいるように

思います。そんな危険性に歯止めをかけて来たのが宗教であったのだ

と思います。医療は、病気を発症し生死に直面した患者さんに対して、

その苦しみを取り除きどのように寄り添っていくのか考え発展してきました。

また宗教は、人は死んだらどうなるのかという死後の世界の恐れや

疑問に対し、人々に安心を導こうと進んできました。どちらも人が生きる

中で、病老死の苦しみにたずさわって

きました。人がどのように生きていくかという問題は、人間にと

って避けることができない大切なこと

です。病気の苦しみの死の苦しみの、すべての人々が面と向かって受け

入れていかなければならないことです。医療も宗教も人々の苦しみを

救うという共通点があり、医療の進歩によって生じた多くの問題にこそ

宗教は大切な役割があると思います。

## 《仏事作法おさらい》

### 正信偈の唱法(3)

日常勤行聖典 P36参照

- ・念仏からレの音で発声します。
- ・陀仏IIダアアンブと注意する。
- ・成仏IIミミミレの発音に注意。
- ・光明IIレミミレの発音に注意。
- ・P39の念仏最後は南無の音が下がって上げるので注意。

・二重の念仏はミの音で発声します。

B 会場 仏事作法 講師 照順寺 草薙善照師

